

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3150480063
法人名	社会福祉法人 こうほうえん
事業所名	グループホームせいどう
訪問調査日	平成 20年 3月 16日
評価確定日	平成 20年 3月 25日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	3150480063
法人名	社会福祉法人 こうほうえん
事業所名	グループホームせいどう
所在地	鳥取県境港市高松町892-3 (電話) 0859-47-5500

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9-4F		
訪問調査日	平成20年3月16日	評価確定日	3月25日

【情報提供票より】(平成20年3月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,240 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100円		

(4) 利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	境港市済生会病院 九里クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関先やホーム内に季節の花がふんだんに飾られている他、共有スペースを中心として常に掃除が行き届いており、全体として清潔で快適な印象を抱かせる。職員の利用者への声かけは常に利用者一人ひとりに対するものであり、声の大きさや内容にも配慮がみられる。大規模法人が運営する開所後八年目を迎えるホームであるが、管理者は開設以来異動無く勤務していることで運営面、サービス提供面の双方において各職員に適宜アドバイスがなされており、安定感がある。さらに、地域との関係については、近隣の小学校との交流や近所の住民がホームを訪れたり、公民館に月1回昼食に出かける機会を持ったり、日々のゴミ出しは地域の集積場を利用する等、地域との関係が良好であることも本ホームの特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「その人らしい希望や願いを引き出す」ことを心がけて支援することが今年度も基本姿勢として維持しつつ取り組んでいることが職員へのヒアリングから確認できた。なお、職員体制については、体力面や精神的ストレスにより離職に至る状況が認められるため、ストレス軽減への対策や勤務シフトの工夫等の具体的な取り組みが引き続き課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果やアンケート結果を運営推進会議の資料として配布して説明したり、自己評価結果を踏まえて改善策等について職員と話し合う機会を持つ等、評価が有意義なものとなるように取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の議題には、ホーム内部での近況報告や地域及び外部・市へのお願い、委員からの質問・意見等、市からの新たな情報を柱としており、2ヶ月に1回の頻度で具体的な検討を行っている。委員に自治会長や民生委員、家族代表、地域包括職員、市の職員とすることでホームの運営や地域や医療の連携方法、利用者への具体的なサービス支援方法について様々な視点から検討できるようにしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意向や要望を確認する機会の多くは面会や電話連絡であり、介護計画の見直しの際等にも意向把握している。また、玄関に意見箱を用意したり、重要事項説明書に苦情連絡先を掲げて説明している。また、毎月金銭出納書のコピーとモニタリング表を家族に郵送することに加え、機関紙「こころ」が刊行されており、写真をふんだんに盛り込むことでホームでの利用者の暮らしぶりを伝えている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>八年目を迎えるホームであり、近隣の小学校との交流や近所の住民がホームを訪れたり、公民館に月1回昼食に出かけたり、日々のゴミ出し地域の集積場を利用する等、地域との関係が良好である。さらに、市が「ふるさと塾」という取り組みを行っており、これは援助員がホームを訪問したり、利用者が以前住んでいた近所に訪問した際に支援してくれる制度であるが、この制度を活用することで、利用者が住み慣れた地域に戻って過ごしたり、レクリエーション等に参加できる状況となっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念や基本方針、スローガンを事務所内に掲示して職員に周知を図っていることに加えて、グループホームの理念も掲げ、利用者にはできることをいつまでもしてもらおうことや、毎日利用者も職員も楽しかったといえる一日にしていけることを基本に置いている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が日々の各職員の業務に浸透するように、ミーティングの際に理念を復唱したり、法人の「互恵互助」の冊子を輪読する等取り組んでいる。その他、担当職員による業務の振り返りも大切にしつつ取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	八年目を迎えるホームであり、近隣の小学校との交流や近所の住民がホームを訪れたり、公民館に月1回昼食に出かけたり、日々のゴミ出しは地域の集積場を利用する等、地域との関係が良好である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果やアンケート結果を運営推進会議の資料として配布して説明したり、自己評価結果を踏まえて改善策等について職員と話し合う機会を持つ等、評価が有意義なものとなるように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や民生委員、家族代表、地域包括職員、市の職員からなる運営推進会議が2ヶ月に1回実施されており、あらかじめ議題を設定して話し合いを行っている。サービス向上に向けた具体的な検討ができる状況と判断できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接する生活支援センターが市の管轄であるため、市の職員と直接話をする機会が多い状況である他、随時連絡を取り合いながら運営している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月金銭出納書のコピーとモニタリング表を家族に郵送することに加え、機関紙「こころ」が刊行されており、写真をふんだんに盛り込むことでホームでの利用者の暮らしぶりを伝えている。	○	職員の異動や紹介について、現在は家族が面会に訪れた際に説明している状況であるので、さらに理解を促す取り組みが課題である。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意向や要望を確認する機会の多くは面会や電話連絡であり、介護計画の見直しの際等にも意向把握している。また、玄関に意見箱を用意したり、重要事項説明書に苦情連絡先を掲げて説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の異動は法人の専決事項であるが、管理者は開設以来異動無く勤務していることで運営面、サービス提供面の双方において安定している。介護職員も開設当初からの職員や4～5年勤務の職員も配置されている。	○	体力面や精神的ストレスにより離職に至る状況が認められるため、ストレス軽減への対策や勤務シフトの工夫等の具体的な取り組みが課題である。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修計画に即した研修受講の他、認知症の専門研修に職員を派遣したり、新任職員にはエルダー制をとりベテラン職員が育成・指導している。各職員が判断に迷ったり、不安を抱えた場合に管理者やベテラン職員に気軽に連絡でき、相談できる状況となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、他のグループホームとの相互研修に参加したり、ホームだよりをもらってデザインや内容を参考にしている。また、法人内のグループホーム間で連携をとりながらサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの入所が決定した際は、実際に入所する前に家族も交えてホームに遊びにきてもらうことを促し、ホームの雰囲気や各職員に慣れてもらってから入所してもらっている。入所前に法人内の他のサービスを利用している場合もあるため、事前に情報交換して利用者の状況等の理解を深めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の支援の柱は一人ひとりの利用者の意向や状況を前提に個別に対応することであり、利用者の入所前の経験や知識が生かせるような家事や趣味活動の場面を用意することで、職員も利用者から学ぶ場面も多くみられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思確認が可能な利用者からは、やりたいことや好きなことを吸い上げそれらを生活に反映できるよう配慮している。また、意思疎通が困難な場合は、日常の利用者との関わりの中から、意向を吸い上げるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意思疎通が可能な利用者からは、本人からどのように暮らしていきたいかを聞き取り、趣味や近隣の地域資源を活用し活気ある生活が送れるよう計画を作成している。また、本人の意思確認が困難な場合は、家族や職員からの意見なども反映しながら、利用者にとってメリハリのある生活が送れるような取り組みを計画に盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングのまとめを家族に送付し利用者の状況を把握してもらっている。また、半年に1回の見直しの機会に本人と家族に改めて意向を確認し、計画に反映している。その他、利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度、家族に説明し、必要に応じて計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームとしては、要請があれば対応する姿勢があるが、現時点では、市からの要請がない状況であるため、現状維持となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームが連携を取っている医療機関は2ヶ所ある。そのうち近隣の医師には2週間に1回の往診により利用者の健康状態を診てもらっている。また、皮膚科の医師は要請すれば往診が可能であり、歯科に関しては、法人内の歯科衛生士に相談し、受診するなど、家族と情報共有しながら行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向がある場合は、できる限り沿いターミナルケアに取り組みたいという姿勢はあるが、それには家族の協力と医療機関との連携によるバックアップ体制が不可欠と考えている。また、利用者本人の苦痛や負担の軽減を第一に考え、家族と検討しながら取り組んでいこうという思いが職員の共通意識として確認できた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴・排泄時など利用者の羞恥心に関わる場面に関しては、タイミングや言葉を選ぶ等、本人の自尊心を傷つけないようにという配慮がある。また、記録などの利用者の情報に関しては、事務所内の施錠可能なロッカーで管理するなど、取り扱いにも細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の生活リズムには差異があるため、食事や入浴などのタイミングも職員側の都合に合わせることはせず、利用者の行動を把握し、タイミングを図って声かけするなど、自然な流れの中で過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と職員が話し合い、利用者が食べたいもののできる限り反映して作っている。買い物の状況や近隣の人からの食材の提供があった場合には、それを採用して献立を変更するなど柔軟に対応している。また、調理や配膳、献立記述など利用者の得意分野を活かして準備に取り組んでおり、皆で楽しく作って食べると		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は、利用者の希望及び利用者間の人間関係などに配慮して決めている。また、入浴への声かけについては、他の利用者へ影響が出ないよう注意をはらっている。	○	利用者の高齢化・重度化に伴い、入浴支援が課題となっている。限られた職員体制という状況があるが、他の地域資源の活用を考えるなど、工夫が求められる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自立度が高い利用者は、掃除や洗濯物干し・食事作りなど、自分でできることは行っている。また、利用者個々の得意分野を活かせるよう職員が配慮しており、利用者の達成感や笑顔を見出せるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や地域(公民館など)のイベント、地域資源を活用しており、利用者が頻繁に外出する機会が多い。また、隣接している施設や小学校との交流により、そこで行われるイベントへの参加も積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の利用者の居室の窓及び玄関は、鍵をかけず開放している。夕方17時から翌朝までの間は、施錠し安全管理を徹底している。利用者及び職員が女性のみ施設であるため、特に意識が高い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力も得られるよう連絡網を作成している他、年2回の避難訓練には、消防署の立会いを依頼して行われている。その際、防災訓練も同時に行った。さらに、法人内で業者に依頼し、消火器・非常灯・非難場所の確認など管理している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスは、適宜確認している他、体重の増減や健康診断結果において医師との相談が必要な利用者に関しては、個別に対応している。また、水分量に関しては、チェック表に記入し、調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設立8年が経過しているが、掃除が行き届き、季節の草花や装飾品が飾っており、情緒ある生活空間となっている。食卓のテーブルの他、ソファを設置し、利用者がくつろげるようなしつらいもある。清潔感があり、利用者も職員も五感をフルに刺激しあって、生活を楽しんでいる様子がうかがえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、利用者の使い慣れたものや好みのものを配置しており、利用者が居心地のよい環境となるよう、家族の協力も得ながら、できる限り利用者の意向を反映できるよう取り組んでいる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム せいどう
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鳥取県境港市高松町892-3
記入者名 (管理者)	真田 豊子
記入日	平成 20年 3月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム理念に基づいて、八年目を迎えた経験を生かしたケアに努め実践に努力している。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、ミーティング時理念を復唱し理解し日々のケアに反映し、実践している。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時、入居者、家族に説明をしている。運営理念、方針、権利、を玄関に掲げている。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会員となり、地域の方と顔なじみになって気軽に挨拶等している頻繁に、季節の野菜や果物を頂いたり、畑の手入れもして頂ける。	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、公民館を通し、地域の沢山の行事に参加し交流を深めている。(ふるさと塾、運動会、敬老会、文化祭、クリスマス会、とんどさん等)運営推進委員に地域より2名参加して頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	交流する中で、認知症等ケアのアドバイスをしたり、話しを聞く機会もある。近隣の独り暮らしの方への配慮も行い、ケアマネとの連携も心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を職員で共有し、課題については具体的な取り組みについて話し合い意識の統一をはかることにも活用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度開催実施し、ホームの近況報告をし、意見、助言を頂いている。防災訓練も一緒に行い、認知症の方の行動にも理解を深めて頂いた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、長寿健康課と連携を図り情報交換に努めている。運営推進委員会にもメンバーとして参加して頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し理解に努めている。ホームで必要となれば成年後見センター等への橋渡しができるよう心掛けている。	○	職員の理解を深めるためにも積極的に研修や学べる場の提供が必要と思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいても、職員がお互いのケアについて注意できる関係作りをし、虐待防止に努めている。特に言葉の虐待に気をつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を分かりやすく説明し、同意を得ている。疑問等有れば理解して頂けるよう説明している。法人内のグループホームで情報の共有し改善にも努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が日頃から、自分の思いが話せるような関係作りと気配りに努めている。家族へは法人が行うアンケートや日頃気軽に話せるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回モニタリング、金銭出納書のコピーを送付し生活の様子や健康状態の報告をしている。面会も多く都度様子報告している。機関紙も発行し特に交流会時、外出時の様子の報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションの大切を職員に理解して頂き、家族からヒストリーを聞きケアにも反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は月1回ホームを訪問し、職員、利用者との交流につとめている。管理者は日頃から職員の思いが聞けるよう心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中に職員配置を厚くし、利用者の希望に添えるよう心掛けている。特に外出や、交流会の対応にも配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動も極力少なくし、馴染みの関係でのケアに心掛けている。異動したり、新職員が入った場合家族に紹介している。	○	開苑八年を迎え、利用者の重度化に伴い、職員の負担も大きくなり、体力的、精神的に離職される方へのカウンセリングも必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の年間教育計画や研修は必ず、職員へ周知し参加も促す。法人内のグループホームも年4回の勉強会も実施している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年1回3日間、他グループホームとの相互研修を行い、良い勉強の機会となっている。法人内は定期的に交流している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は月1回訪問し、職員への声かけの実施。管理者は、日頃の様子を把握し、ストレス軽減に向け話を聞くよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人内で、いろいろな表彰制度を設け、職員がより一層向上するよう働きかけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>絶えず、利用者の思に耳を傾け、一緒に考え、行動していく。特に担当者が中心となり、情報は職員で共有していく。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前より、家族の不安や困りごとを聞くようにし、入居後は面会時は必ず家族と話す時間を持つようになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どの様に支援することが一番か、他部署と連携を取りながらその方にとって一番良い支援をしていく。地域包括支援センターやケアマネとも日頃から連携を図っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態に配慮しながら、入居前何度か来て頂き、利用者や職員と顔なじみになったり、雰囲気慣れていただいている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者を人生の先輩と尊重し、日々の生活においてもご利用者にいろいろ教えていただき共により良い生活が送れるように勤めている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員と一緒に頑張ってご利用者を支え相談しやすい関係作りに努めている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病院受診、美容院、墓参り等家族の協力を頂き家族との繋がりが、遠のかないよう支援している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が住んでいた、馴染みの公民館活動に月1回は参加出来るよう援助委員の方と協力しながら、楽しみへの支援をしている。地域の方のボランティア活動も月平均3回あり馴染みの関係が続いている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気のあった方とテーブルを一緒にしたり、ドライブに出かけたり、日頃あまり会話されない方は、職員が橋渡しをすることで、会話出来るよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>〇関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス利用後も良い関係作りに勤めている。特に他施設への入居や入院等の場合面会に行き、家族が遠方の場合等様子報告も行っている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>〇思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者の思いを生活支援計画に反映させている。思いの表現が困難な方は、日々の生活行動等から本人の思いに近づけるよう努めている。</p>	
34	<p>〇これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>法人独自のヒストリーシートを活用し生活歴、エピソードの把握に努めている。地域交流からもいめいめな情報を得る事もある。</p>	
35	<p>〇暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の変化の共有を連絡ノートやミーティングを通し、把握し気配りに努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>〇チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者、ご家族からの意向、職員の情報を取り入れ生活支援計画表作成している。</p>	
37	<p>〇現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ご利用者、家族と相談しながら半年に一回見なおしを行っている。状況が変化した場合その都度状況に即した見直しを行うよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、モニタリング等で情報を共有し、介護計画の見なおしに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、デイサービス等の申請をしている。	○	現在、市が検討中
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源を活用しながら、ご利用者が生活しやすいよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者、ご家族と相談しながら他のサービスの提供も受けている。ソフト食の提供、歯科衛生士の訪問、OT、PT等協力して頂いている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員のメンバーでも有り、情報交換しアドバイスいただくこともある。(入居前の状況等)		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を重視し、かかりつけ医を決めている。ホームには2週間に1回往診にきていただく先生もある。家族との情報の共有を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	声の大きさ、タイミング、話の内容に配慮しながらご利用者に言葉かけをしている。〔特に排泄時、入浴時等〕	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者の状態に合わせて言葉かけをしている。ご利用者の能力が発揮出来るよう共に作業しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活リズム等職員が共有し、本人の希望に添えるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	在宅から行きけの美容院へ家族の協力を頂きながら行っている。いつも清潔な物を着て頂ける様配慮している。本人の好み優先。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と相談しながらメニューを決めたり、買物にも出かける。食事の準備等も協力して頂きながら作る。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事に関しては、嫌いで食べれない物には、代替りの物を提供している〔魚、肉等〕飲み物等も好みを重視している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄パターンを把握しながら支援している。車椅子で 全介助の方も昼間は体調に配慮しながら、トイレにて排泄出来る様支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の希望や体調に配慮しながら支援している。	○	車椅子の方はシャワー浴が中心となり、浴槽に入れるようハード面を工夫し実施していきたい。寒い時期は職員二人で抱えて浴槽に入るも転倒のリスクある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量を増やしたり、気分転換に努め、睡眠に向け工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の趣味や、やってみたい事を聞きながら活動出来る様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金を所持されていないが、事務所で預か伝わる事を 説明し、ご本人の買物は一緒に出掛け購入するようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域のイベント、他部署のイベント、買物等少しでも多く出かける 機会がもてるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望を気いて、家族と共に実現に向け努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等は返事が書けるよう支援している。電話も希望があればかけたり、職員への用事の時もご利用者と代わり話をさせて頂いて居る。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客時、笑顔で対応しお茶やお菓子をお出しし、和やかに過ごして頂ける様配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で抑制廃止に取り組み、身体拘束の廃止を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、外部からの侵入者へのリスクに配慮し部屋の窓の鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜問わず、ご利用者の様子を定期的に確認し対応に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状況に合わせて、物品の管理をしている。日中は洗剤や包丁は職員と共に使用するが、夜間は施錠できる場所へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活支援計画表にリスクを記入し事故防止に努めている。法人独自の事故報告書を作成し再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	常にご利用者の急変を予測し、対応を職員間で話しあっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練の実施〔専門機関立会い〕災害発生時は地域の協力も得られるよう連絡網作成。防災訓練も一緒に実施した。食料、飲料水の準備をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とリスクに対する話し合いをし、支援に対しても意見を頂きながら、楽しく生活していただくよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の日頃の状態把握を状態変化の早期発見に努め、情報の共有。かかりつけ医とも連携を図っている。家族にも報告し、共通意識に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は病院からの処方箋を必ず読み、目的、副作用、用法や用量を確認し医師の指示通りに服薬している。医師とも連携を図り、薬の必要性の検討を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬に頼らないようし、水分、運動、食事(繊維の多い物)に気を付け、個々の状態に合わせて配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来かねる方は、職員が出来ない所を支援し、清潔保持に努めている。歯科衛生士、STとも連携している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日1700cal水分1500CCを目安に個々の状態に合わせ、好みの物を提供している。水分量、食事は記録し、かかりつけ医と連携し、体調管理に努めている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>マニュアルを参考に周知徹底している。うがい、手洗い、除菌の徹底手袋を使用し保護している。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板、布巾は毎回消毒している。新鮮な食材を使用している。炊事の際は冷蔵庫をチェックし賞味期限内に使用している。</p>	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りをいつも綺麗にし、四季折々の草花を飾り、季節を感じて頂き、訪れやすい雰囲気作りをしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>華美にならない様、また高齢者に住みよい色使いと家庭的な雰囲気になるよう配慮している。食事作りの音、匂い、季節の花等五感に働き掛ける様に配慮している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った方が話しやすいよう、居間にソファを置いたり、中庭にベンチを置いたと居心地の良い空間作りに配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>テーブルや椅子の高さが一律の為、ご利用者に合わせた物が必要。今後検討していきたい。現在は座布団等で調整している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設時から地域の方に声を掛けて頂き、盛んにいろいろな交流を行っている。小学校、公民館、ふれあい塾、他部署の行事にも参加し外出の機会多い。